益田市【島根県】
歴史文化基本構想

■策定年度：平成30年度■人口：46,532人■市域面積：733㎢
■担当課：益田市教育委員会事務局文化財課（平成31年3月現在）

益田市は山陰地方の最西端に位置し、いつの時代も様々なレベルでの「中央」から遠く離れた「辺境」あるいは「境界」の地であった。しかし、「辺境」「境界」であることは、政治的には重要な地域であり、また中国大陸や朝鮮半島に対する最前線であったため、政治的な自立性が高く、豊かな山林資源を背景に日本海交易を活発に行うなど独特の気風を形成してきた。

5 歴史文化を表すつのキーワード	「境界」の地、中世益田氏と雪舟、日本海交易の最前線、豊かな山と川の恵み、「過疎」発祥の地

課題

- 歴史文化の普及啓発
- 歴史文化の情報発信
- 歴史文化の活用
- 人口減少の中での歴史文化の継承

保存活用方針

- 歴史文化の価値と魅力を知り、共有する
- 歴史文化を守り、次世代に伝える
- 歴史文化を活かし、輝かせる

保存活用のための取り組み

みんなで歴史文化の価値と魅力を知り、共有する

歴史文化基本構想の策定過程で市民が主体となり実施した総合的把握調査は、歴史文化とその構成要素である文化遺産、地域・地区の個性を見つめ直す機会となった。
引き続き総合的把握調査を実施し、地域の歴史文化の再発見と共有をはかる。

みんなで歴史文化を守り、次の世代に伝える

益田市では、特に山間部を中心に、人口減少と高齢化により、これまで地域で支えてきた歴史文化の継承が困難になることが想定される。
地域の歴史文化を次の世代に継承するために、ふるさと教育・生涯学習の機会を充実させ、また地域間交流を進める。

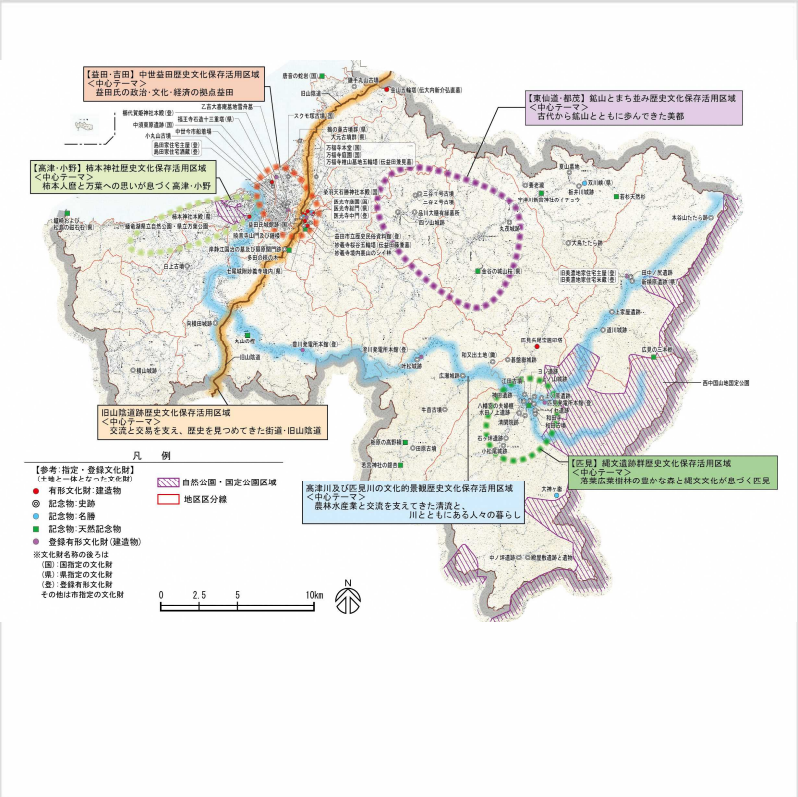
みんなで歴史文化を活かし、さらに輝かせる（観光振興）

歴史文化基本構想により、従来の益田市の点としての観光拠点を結びつけ、線につなげ面に展開してパッケージとして売り出すことができる。
市内では関連文化財群や歴史文化保存活用区域を活かした観光ルート、また市外・県外と連携した広域周遊ルートの整備を進める。

みんなで歴史文化を活かし、さらに輝かせる（地域振興）

益田市の各地区は、それぞれ特徴的で魅力的な歴史文化を有しており、これを活かすことで魅力的な地域づくりを行うことが可能となる。
歴史文化を活かした景観整備やお土産物開発、情報発信拠点の整備などの支援を進める。

歴史文化保存活用地区



益田市では、中国山地、高津川・匹見川・益田川、そして日本海によって形成される複雑な地形により、地域ごと、時代ごとに個性ある歴史文化が育まれた。こうした地域と時代ごとの、また地域と時代を横断した歴史文化を、まとまりとして活用するために、12の関連文化財群と、6の歴史文化保存活用区域を設定した。

ストーリー

1. 中世益田歴史文化保存活用区域
2. 柿本神社歴史文化保存活用区域
3. 鉱山とまち並み歴史文化保存活用区域
4. 縄文遺跡群歴史文化保存活用区域
5. 高津川及び匹見川の文化的景観歴史文化保存活用区域
6. 旧山陰道歴史文化保存活用区域

策定後の成果（見込まれる効果）

①地域への誇りと愛着の醸成

益田の豊かで、全国に誇ることのできる歴史文化を知ることで、地域への誇りと愛着が醸成され、地域に住み続けたい、あるいは地域に貢献したいという思いが生まれることが期待される。
このような地域への誇りと愛着は、人口減少対策や地域の維持にとっても重要な意義を持つと思われる。

②歴史文化の着実な継承

歴史文化と文化遺産の把握と共有、防災・防犯体制の整備により、それらが着実に継承されるよう、取り組みを進める。
また、人口減少や少子高齢化により地域での継承が困難になっている歴史文化や文化遺産についても地域間交流等を進めることで、継承することができるよう支援を進める。

③歴史文化を活かした観光・地域振興

歴史文化基本構想により明らかになった益田の歴史文化の特色をもとに、観光資源のパッケージ化や地域のブランド化を図り、観光振興・地域振興を進める。
また、景観整備や文化財建造物の活用、体験活動等も進め、交流人口の拡大につなげる。